

図書館だより

2021年

9月号

編集・発行
指定管理者
図書館流通センター
出水営業所

『ONODA』（原題）、『ONODA 一万夜を越えて』
(先月号からの続き)

谷口は、今度こそ、小野田少尉を救出せねばと決心していた。それで、一月でも、二月でも、あるいは半年でも、見つけ出すまでは、要すれば、自分も、それからの生活を、小野田少尉と同じようにしてでもと考えていたので、すべて、そのような装備や体制で山に入っている。

だから、テントを張るにしても、ゴロ寝のつもりでいたところ、やはり、寝台があつた方がいいと勧められて、折畳式を持って行った。

食糧は、米、携帯味噌汁、即席ラーメン、それから梅干、私は酒を一滴も飲めないが、鈴木青年が、私は……というのでウイスキーを、そして、根本方針が「待つという態勢」なので、釣竿と網を携行した。

夜、えびを取り、食料の足しにするほか、それを、昼、魚を釣るためにもした。このえびは、後に、小野田少尉への料理にも供している。

現地は、アクワヤン川が、二岐に分かれたところ、川を後ろにし、東は竹藪、北は畠といつたような広ヶ原、その先は台地になつていて。

谷口は、それまでに鈴木青年からの話で、小野田少尉が、警戒心一單に、そんな言葉でいう以上に、実に感心するぐらい、ことごとに緻密な配慮をしていることを知っていた。

たとえば、彼が、先に、鈴木青年に会い、一晩中、人質にしておくつもりであつたし、翌朝、夜明けとともに北の台地に登り、写真も撮り、そこで話を続けたあと、別れている。

第一、彼に会うため接近するときは、身体中、ボサで、すっかり完全偽装している。

そのほか、会つてからの話であるが、新聞などに、すでに伝えられているように、水やバナナなどの食料の取り方など、すべて細かな配慮で貫かれている。

しかし、谷口らは、小野田少尉に、われわれが、ここに来ていることを知らさねばならぬ。

そこで、炊事のつど、煙を上げるように努めたが、そういうつもりになつてみると、炊事の煙といふものは、なかなか上に上がらないものである。

だから、地形上、現れそうな方向、場所は、大体、ことごと、この辺と決まつてくるので、炊事をしていても、釣りをしていても、しおつちゅう、右を見、左を見、あるいは、ヒヨイと後ろを振り向いて見たりしていた。

ともあれ、谷口は、小野田少尉が現われてくるのは夕方か夜と判断していた。

鈴木青年との最初の邂逅も、そうであつたが、昼は絶対、ないはずだ。彼としては、明るいうちに、見つけた天幕の周辺を完全に偵察しておいて、日没とともに接近するはずである。だから、日没に近づくに従い、谷口は一層、周辺に目を配る日々を続けていた。

ところが、6日、7日、8日、9日になつても、彼は出てこない。そ

うすると、鈴木青年が、あわてだしてきました。

鈴木青年は始め、小野田少尉と会い「谷口少佐に会つて……」という言葉を聞き、「それなら、谷口少佐を……」と思つたが、その「谷口少佐」なる人物を、日本中から探し出すのに、一月や二月は、かかると思つていたらしい。

だから、谷口が「何も、そんなに慌てることはないじゃないか」といふと、いや、「軍当局にア・カップ・オブ・デー」両日中に「といったかもしれない。もし、そう、思つていたら、大変なことになる」

「そんなことは、問題じやない。あした十日の様子を見てみよう。それでも駄目だつたら、また、あと十日だ」——これは青年が会つてから、ちようど、一月目になる。

谷口は、始めから、要すれば、半年ぐらいの覚悟で来ているから、少しも、焦る気持はなかつた。しかし、鈴木青年は、さらに「困つた、困つた」を連発する。

しまいには、「これでは、僕は腹を切らねばいかん」とか、果ては、「厚生大臣や次官が、首をきられる(辞職の意)ことに、なりはせぬか」などと口走る。

こうして、まあ議論しあつて、二人とも、やや疲れ氣味で、ちよつと、ボーッとなつていたころ、突然、鈴木青年の「オツ、オツ……」とか、果ては、「オノ、オノ……」とも聞こえるような、言葉にもならぬような叫び声を聞いた。

谷口は、天幕の傍にパンツ一枚で座つていたが、ハツとして、声の方に向くと、谷口の向うに鈴木青年、その延線上、50メートルぐらいの先を、新聞の写真に出ているような姿の小野田少尉が、銃を下げて、それこそ、トットツという恰好でやつてくる。

今度は、パンツ一枚の恰好でいた谷口が、いささか慌てた。

「待てッ、今から命令下達する」と言つて急いで服装を整え、例の参謀部別班命令を口達し、それから、ト部大使が、現在の日比関係の委細を縷々述べられたメッセージ——これは、非常な名文です——を読んで聞かせた。

その間、後で知つて驚いたのだが、40キロ以上もある重い背負い袋を着けたまま、彼は昔どおりの執銃の直立不動の姿勢である。

実は、谷口は、命令下達は重要な場面だから前もって、鈴木青年に、撮影の役を頼んでおいたのに、彼はフラッシュの接点をMとXと取り違え、さっぱり、同調しない。

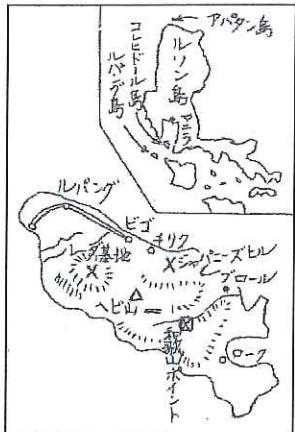
谷口は谷口で、これはカメラの故障と考え、「鈴木君、僕ので早くやれ」と、フラッシュなしのE-Eカメラを渡して、撮らせたのが、新聞にも発表されている、その場面である。

谷口も、出会う、直ぐ命令下達ということで緊張の連続だったのであろう、そのときになつて、始めて気がつき、「荷物ヲ下ロセツ！ 休メツ！」と号令した。

彼は、初年兵のやる、そのままの挙動で、「休メ」の姿勢をとる。そこで、恩賜の煙草を渡したが、彼は、まだ、装備を脱がたままで口にしない。

そこで、谷口は、彼の荷物を下ろさせ、銃の弾丸抜きを命じ、銃と弾薬を、私が預かつた。

これも、取り上げるといった恰好になるとまずいので、「預かる」というムードでやるように、気をつかつてやつた。
そうして、「これから先は、俺が、君が日本に帰るまで一切、誘導する」と申し渡した。



『出水文化』32号

※ 続きは『出水文化』第32号（73頁から）をご覧ください。
(中央図書館に所蔵しております)



8月19日から9月12日まで、新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため、臨時休館しておりましたが、9月13日より滞在時間1時間以内という制限付きですが、開館いたしました。今後とも感染予防対策にご協力いただきながら、ご利用くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

館内の座席は半減、また、読み聞かせ会等の行事も見合わせています。ご理解とご協力をお願いします。



臨時休館中、こんなことをしました



雨の降る日が続いた今年の夏、中央図書館の玄関先のレンガが黒ずみ、滑りやすくなっていました。

そこで、臨時休館を利用して、レンガの清掃作業を行いました。

撮影したこの日は、地域貢献で図書館へ研修にいらっしゃった先生と一緒に、作業を行いました。



中央図書館 電話0996-63-2105
高尾野図書館 電話0996-82-5452
野田図書館 電話0996-84-3100

今月の休館日は 1日～12日(臨時) 21日(定期)
" 1日～12日(臨時) 17日(定期)
" 1日～12日(臨時) 17日(定期)

今月の休館日は?